

おやこ防災サロン U-15のための防災ワークショップ ダイジェスト

①ジュニア防災キャプテン認定講座（全3回）



◆第1回オープニングスピーチ

「全国最年少防災士と話そう！子ども目線の防災」

（7月7日）

学校や公園、お店など地域に一番長い時間いて、地域を一番知っているのは”子ども”。

だから子ども目線で防災を考えることはとても大事。

見守りたい人や地域の人と挨拶してお互いに顔を覚えることも子どもができる大事な防災。

防災を意識して地域を見ると新しい発見がたくさんある。というお話を聞きました。



災害にはどんなものがある？

防災リュックにどんなものを入れてる？

去年の大阪北部地震を経験してどんな備えが必要だと思った？

講師の問いかけにたくさんの意見が出ました。

防災士の仕事は大人じゃないとできないのでは？と思っていた子どもたち。僕も防災の勉強をしたい！という子ども続出でした。



◆防災まち探検（7月28日）



災害時に役立つ場所が身近なところに意外にたくさんある！モデルコースの地図を見て出発前にチェックする子どもたち。

近くの公園にあるベンチ前に集合。区役所のご協力がかまどベンチを実際に開けていただきました。

かまどベンチは平常時はベンチとして使われますが、災害時には座るところを外すと炊き出しに使えるかまどとベンチとして使えます。

いざという時に知っているとなると役立つ場所をたくさん発見できました。



◆防災スタンプ&クイズラリー（8月18日）



地域にある災害時に役立つ場所に用意されたクイズに答えてスタンプをゲット！

猛暑の中、災害が起きたらどんなことが困る？の問いかけに暑さ対策も大切な防災だという意見がたくさんでした。

近くの小学校は災害時に避難所として使われます。避難所には何人分の食料が何日分備蓄されているのかな？水道が使えない時は簡易トイレを使うことになるけどどんな感じなのかな？自分の目で確かめます。

公共の建物の中にある災害時対応の自動販売機は初めて見る人も多く人だかりに。

街のあちこちにあるコンビニが帰宅困難者の支援をしてくれることは意外と知られていませんでした。保護者の皆さんも熱心に聞いてくださいました。

帰った後はスポットの名前や災害時の役目をマップにまとめて、クイズの答えもしっかり確認。



お待ちかねの答え合わせは昨年ジュニア防災キャプテン認定を受けたお子さんが担当してくれました。

「僕もお手伝いしたい」そう言ってくれたお子さん、ありがとう。頼りにしてます。



②おやこ防災クッキング（全4回のうち3回終了）

災害でライフラインが使えない！避難生活において生命の維持や心身の健康に直接影響する食環境の問題。非常食の定番のアルファ化米と簡単に手に入る材料を使って、いつも食べているような美味しいメニューが作れます。

料理研究家の南井由希子さんオリジナルのレシピを使って非常食を栄養豊かな美味しいメニューに変身させる方法をお伝えしました。親子で一緒に作りながら災害時の食について心配や対策など意見交換をしました



◆メニュー

- ・アルファ化米（白米）
 - いなり寿司（7月7日）
 - チキンライス（7月28日）
 - チーズカレードリア（8月18日）
 - ぜんざいとみたらし団子（1月12日）

ライフラインが使えなくても、調理設備のない室内でも美味しいものが食べられる！

災害時だけでなくキャンプなどのアウトドアでやっておくといざという時の安心にもつながりますねと講師からのコメントに保護者さんからなるほど〜の声。



アルファ化米を初めて見たというお子さんには調理前の状態もしっかり見て、触ってもらいました。これがお水やお湯を入れるとお米になるなんてちょっとびっくり。

子どもたちが大好きないなり寿司やチキンライス、カレードリアなどのメニューが災害時でも食べられるの？と最初は半信半疑だった子どもたちも実際に作ってみると「こんなに簡単にできるなら災害時じゃなくてもお手伝いできるかも」と大喜び。



食器にも一工夫。水が出ないときは洗い物をできるだけ減らす工夫も必要です。

プラスチックのコップにビニール袋を敷いて食器に使ってみました。テーブルがなくても安定するので食べやすいと大好評でした。



③プロフェッショナルと考えるミライの防災ワークショップ（全3回）

防災・減災の第一線で活躍中のプロフェッショナルのお話を聞き、自分の意見やアイデアを伝えてみよう！プロがみんなの意見をしっかり受け止めてくれる子ども扱いしない真剣勝負の講座。



◆100年続く避難所の景色を変えたい！ダンボールベッド開発者の思い（7月7日）

災害関連死を防ぐための有効なツールとして注目されているダンボールベッド。開発者の水谷嘉浩さんに海外の避難所の様子や災害関連死をなくす方法をお聞きした後、ダンボールベッドを実際に作って寝心地を確かめるワークショップを開催しました。

「テーブルや机があったら嬉しいな」というアイデアも飛び出しました！



避難生活で困ることの一つにトイレがあります。簡易トイレを実際に組み立てて中に入ると「暗い、暑い」「心細い」など子どもらしいコメントが聞かれました。

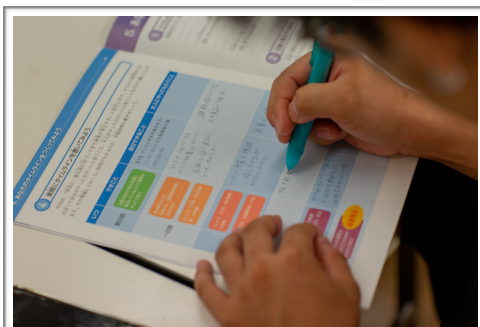
「電気をつけたらどう？」「扇風機を入れたら涼しいかも」「テントに可愛い絵を描いたらどう？」といった解決策も子どもたちが考えてくれました。



◆人間はなぜ逃げないのか？災害心理学のお話（7月28日）

災害時の人間の心の動きと行動の関係について研究している関西大学の元吉忠寛教授から災害心理学について、大学教授の仕事について聞きました。

人間は差し迫った危険を感じても「みんなが逃げていないからまだ大丈夫」と思いがちです。これは人間の心の仕組みなのでそれを変えるには逃げる時のことを先に考えて決めておくことが大事だというお話でした。



気象災害は事前に災害の規模や被害がある程度予見されることが多いので、台風がやってくるという想定で自分や家族の行動を前もって決めておく「タイムライン」づくりをしました。

最後に一人ずつ発表してもらいました。お

菓子を置いておく、携帯電話やゲーム機の充電をしておく、ゆっくりお風呂に入っておくなどいろいろな意見が出ました。



◆災害の現場で命を救うDMAT隊員のお話（8月18日）



大規模な災害が起きると派遣される医療専門のチームDMAT。隊員として活躍する嶋津享子さんから、小学生の時から夢だった看護師になれた時の気持ちや看護師として日々命に向きあう中で感じた仕事への思い、DMAT隊員として見た被災地の様子などのお話を伺いました。

応急処置のミニレクチャーの後、無線機を使って本部と被災地とのやりとりを体験したり、隊員の装具やユニフォームなどを実際に見て、触れて、身につけてさせていただきました。



「私も看護師になってDMATに入りたい！どんな学校に行けばなれますか？」「看護師の勉強はいつから始めましたか？」など、将来看護師になりたいという子どもが多く、具体的な質問がたくさん飛び出し、講師もびっくりされていました。

次回予告

2020年1月12日(日)

●おやこ防災クッキング「アルファ化米で作るぜんざいとお団子」

●プロフェッショナルと考えるミライの防災ワークショップ「防災のプロに挑戦！防災クイズ大会&ジュニア防災キャプテン認定式」